

令和6年度

校内研究のまとめ



佐賀市立金立小学校

目 次

I. はじめに	1, 2
II. 校内研究全体計画	3~6
III. 授業研究の振り返り	
岡 真由美	7, 8
内野 滉太	9, 10
杠 彩生	11, 12
藤松 千晃	13, 14
佐々木 巧	15, 16
牛島 風香	17, 18
脇部 拓也	19, 20
三好 孝晴	21, 22
伊藤 陽子	23, 24
佐々木 輔	25, 26
村山 康三郎	27, 28
牟田口 典美	29, 30
栗下 翔磨（寺澤千恵）	31, 32
末次 要子	33, 34
横尾 英樹	35, 36
IV. 校内研究アンケート	37, 38
V. 研究同人	39
参考資料	

はじめに



金立小学校では、令和5年度から、現在のような個々人の教師の課題解決という方法での校内研究に取り組んでいます。今年度の春に佐賀県教育委員会学校教育課が主催する管理職のための学力向上研修(オンデマンド研修)で本校の校内研究の様子を紹介させていただく機会を得たこともあり、少しずつ、このような進め方で校内研究に取り組んでいる学校が増えてきたように思います。ただ、誤解してほしくないのは、この方法が万能の方法であるということでもなく、多くの学校に推奨されているというわけではないということです。(むしろ、ニッチな方法であると思っています。) これまでのような「仮説検証型」の研究推進を行い、年に一回の研究授業のために、しっかりと学習指導案を練り上げ、何度も模擬授業などを重ねて、本番の授業を迎えるような研究授業のやり方もそれなりに成果を上げているように思っています。つまり、これまでのやり方を全否定しているわけではないのです。ただ、この忙しい学校において、佐賀市単位や佐賀県単位で、ときには、九州大会や全国大会で、しっかりと指導案を書き上げて、授業を公開するような機会も巡ってくる中で、(誤解を恐れずに言うとしたら、) 校内研究においてまで、そのような方法をとることは、かける労力と得られる成果のバランスがアンバランスなのではないかと思うのです。「教科研究にはこれまで大切にしてきたことがあるのだ」とのお叱りを受けるかもしれませんが、それはそれとして、本校の校内研究では、個々の先生方が、それぞれに、自分自身の指導や授業としっかりと向き合い、自分自身の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善により、常によりよいものへと見直していくことを「自分事」として行っていくということに注力したいと考えています。

前述の、本校のような方法で校内研究に取り組んでいる学校の校長先生や研究主任の先生から、「学校としての成果はどのようにまとめるのですか」とか「児童生徒の変容はどのように見取るのですか」といったような質問を受けることがあります。そもそも、学校としての研究の成果をまとめる必要があるのか、個々人の先生方が取り組んできた研究のプロセスやこの一年間の自分自身の変容を、学年グループや全校で熱く語り合っ、互いに共有することこそが成果であり、それを紙に書き起こしたり、冊子に取りまとめたりするのは二次的なものに過ぎないのではないかと考えています。また、児童生徒の変容が見られれば、教師としては嬉しい限りです。本校では、CRT(算数)の結果なども一つの指標として利用できるかもしれませんが、その結果を分析的に見て、今後の算数科の指導に生かすことは大切ですが、果たして、その結果が、自分の校内研究での取組の成果と本当に言えるのでしょうか。客観的に児童生徒の変容を見取することは容易ではありません。それが、自分の取った手立ての成果かどうかということを証明することも然りです。だから、個人的には、児童の成果の見取りはざっくりと、授業をしている担任の先生の肌感覚でもよいのではないかと思います。むしろ、授業を行っている自分がしっかりと変わっているかということに目を向けてはどうでしょうか。例えば、「どの教科でも、必ず、子どもが関心を示してくれるようなめあてを分かりやすく伝えることができています。」「毎時間、必要性のある児童同士の話し合う活動を位置付け、ただの伝え合いにならずに、本当の意味での『対話的な学び』が生まれるように、いつも少しずつ工夫・改善を行っている。」など、教師としての、自分自身の変容は分かりやすく、また、できたかどうか自分で客観視できると思います。また、そのことが、独りよがりになっていないかを確認するために、時々、「他者のまなざし」を入れて、チェックをするということです。(年間4回の授業研)

本校の校内研究が本当の意味で軌道に乗るためには、3年ほどかかると思っていたのですが、これまで、私自身は、3年目を見届けることなく、人の手に委ねてくるが多かったように思います。本校では、先生方のいくつかの入れ替わりはあるものの、年間を見通して、4回の授業に取り組むことはある程度、スタンダードになってきたように思います。学校行事などもあり、忙しいのですが、私たち教師は「授業が本分である」と思います。自分の強みと課題を明確にし、その強みをのばして課題を解決するために、何に取り組むのかをしっかりとつこと、そのためには、今、もっている知識や技能だけではなく、文献に目を通したり、先輩教師に尋ねたりするなどの努力が必要です。そのためにも、行き当たりばったりのやらされ感満載の取り組み方では、きっとよい成果は得られないと思っています。このように、この研究スタイルはある意味、とても自由度が高く、教師自身の主体性が試されているような進め方となっています。本校では、ベテランも若手もそれぞれに、自らの課題を設定し、その課題を解決するために、自らのペースで年間を通して、課題解決に取り組んでいくといった営みを校内研究として位置付けて、2年が終わりました。金立小学校に在籍する、誠実で、常に前向きで、互いの関係性を高め合うことができる先生方にとってはよい方法ではないかと思っています。令和7年度は、3年目となります。この研究の進め方を一つのスタンダードとしつつ、研究の質もさらに高めることができるように、新たな年度の取組が期待されるところです。

この研究では、「……せねばならない」思考の「させられ感」による研究ではなく、少しでも「やりたい」「やってみたい」という気持ちを前面に出して「わくわくしながら」また「楽しみながら」取り組む研究でありたいという願いがあります。その上で、1人1人の研究の質もさらに高まればいいことはありません。まだまだ、志半ばではありますが、金立小学校の素晴らしい先生方一人一人の2年目の取組の成果をぜひご覧いただければ幸いです。

令和7年3月 26 日

佐賀市立金立小学校 校長 副島 和久



金立小学校教育の質的改善
～深い学びに向かう児童の育成をめざして～

1 主題設定の趣旨

(社会の情勢や国の動向)

令和2年度(2020年度)、小学校で新学習指導要領が全面実施となって4年が経過した。また、令和3年1月には『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)において、学習指導要領の趣旨の実現に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくということが強く打ち出されたところである。子どもたちが「何をどのように学び、何ができるようになるか」と言ったような視点に立ち、新しい時代に求められる資質・能力を育むための教育活動をさらに充実させていくことが求められているのである。

全ての教科・領域において「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」という3つの柱で整理された資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必須であり、また、手立てとしてのICT活用をより推進するなどしながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが重要となる。そのためには、まず教師自身が自らの授業や指導としっかりと向き合い、「主体的・対話的で深い学び」の視点で普段の授業を不断に見直し、必要に応じて改善を図ることが不可欠であると考えます。

(令和4年度までの本校の校内研究の成果と課題)

このような中、これまでの本校の校内研究を振り返ると、「めざす児童のすがた」を明確にして、教師間で共有してきたことは一つの成果であるといえる。また「深い学びに向かう児童」を育成していくための授業づくりを研究の主題に据え、「授業づくりチェックシート」を活用した授業改善に取り組んできた。研究授業では、問題解決型の授業展開を中心に行い、学年グループで学習指導案を練り合い、授業後は成果と課題について全体で協議するというスタイルで行ってきた。このような校内研究において得られる成果も多くあったと思うが、一方で個々の教師の日々の授業改善にはあまり結び付いていなかったのではないかと反省もある。例えば、「提案授業を行うことは勉強になるが、そのことと普段の授業がなかなか結び付いていなかった」「算数科以外での教科では授業づくりチェックシートを活用できなかった」といったような声があり、時間をかけて取り組んできた校内研究が日常の授業実践にはあまりつながっていないのではないかと推察する。また本校の教師の年齢構成は経験豊富なベテラン教師と新規採用間もない若手の教師が多く、ミドル層が極めて少ない。当然、ベテラン教師と若手教師では解決すべき自らの課題も目指す目標も大きく異なっていると考えられる。

(令和5年度 校内研究の概要)

そこで、全ての教師一人一人にとって価値のある校内研究をするため、本校では令和5年度から、個々の教師の「課題解決」を図る校内研究へと大きな転換を図ってきた。それは、個々の教師がそれぞれに自らの「課題」を解決するために、年間を通して「授業実践」を行い、その営みを校内で「共有」していくという研究である。ベテラン教師も若手教師もそれぞれに自らの「課題」を解決していくために、年に一度の「研究授業」といった非日常ではなく、普段の授業や取組を不断に見直し、その質的改

善を図ってきた。「質的改善」とは、これまで取り組んできたことに対して「それは何のために行っているのか」「そのことで子どもにどのような力が付くのか」「果たして本当に力は付いているのか」といったような視点で見直しを図り、本当に意味のある取組としていくことである。また、個々の教師の課題解決のためには、教師自らが学ぶ意志や意欲をもち、自らを律しつつ、自己責任を果たしていくことが重要である。つまり学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を、まずは教師自身が実践するという研究でもあった。

（令和5年度 校内研究の成果と課題）

令和5年度、本研究に取り組んでみての教師による評価は概ね良好であり、次年度もこの方向性で校内研究を進めることへの肯定的な意見が多かった。一方で、年間を通して1回はしっかりと学習指導案を書いての研究授業を行うべきであるという意見もあった。また、課題としては、個々の教師がしっかりと課題意識と一年間の見通しをもって取り組まないと「年間に4回の授業を行う」こと自体が目的になってしまうことや、教師一人一人の自主性に委ねられている部分が大きいため、計画的に実施できなかった教師がいたこと、特別支援学級においては、相互の授業参観が難しいことなどが挙げられた。令和5年度から新たな校内研究に取り組んできたことの成果と課題をしっかりと受け止め、今年度の研究に生かしていくことが求められる。

以上のことを踏まえ、令和6年度の研究では、これまで本校の校内研究で積み上げてきたものを大切にしつつ、令和5年度の研究を継続し、さらに深化・発展させていくこととする。国語科、算数科、音楽科などを中心に幅広い教科において研究に取り組み、これまで以上に、「授業づくりチェックシート」を活用することで、児童の主体性を喚起し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図るために授業の質的改善に取り組む。

2 研究の目標

「授業づくりチェックシート」を基に、教師一人一人が自らの「強み」と「課題」を明らかにし、継続的に授業力向上を図ることで、児童が「主体的・対話的」に学ぶことのできる授業を展開し、児童一人一人の「深い学び」の実現をめざす。

3 研究の内容

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための「学習の約束」の見直し
- (2) 「授業づくりチェックシート」を活用した授業の質的改善

4 研究の方法

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための「学習の約束」の見直し

現在、全学年共通に設定している「学習の約束」を、学習規律の定着のみならず、児童の「主体的・対話的で深い学び」を実現できるものとするために、本校でこれまで設定していた「めざす児童の姿」の大切なポイントを生かしながら、学年段階（低・中・高）に応じて見直しを図る。

- (2) 「授業づくりチェックシート」を活用した授業の質的改善

・「授業づくりチェックシート」を基に、自らの「強み」「課題」を洗い出し、年間を通して取り組む課題を明らかにする。（ここでの課題とは、改善したい点、よりレベルアップを図りたい点など）

- ・単元（題材）や本時の評価規準、課題解決のための手立てなどを記した「授業構想シート」（A 4）を作成し、年間4回（1学期1回、2学期2回、3学期1回）の小グループ（またはペア）による授業公開を行う。（内野先生は指導案を作成しての初任研の研究授業をもって代える）
- ・授業後は授業の自己評価・他者評価ができる評価シートを準備し、できるだけ間を置かず、その評価結果を参考にしながら、小グループで授業についての振り返りを行って記録し、その後の授業改善につなげる。
- ・「研究のまとめ」は年間を通して作成していく。年間4回の授業の記録はその都度、記録する。また、年度末に、年間を通した自らの課題解決の状況についての振り返り（A 4で1ページ）を執筆する。これを全員分取りまとめて「研究のまとめ」とする。
- ・「授業づくりチェックシート」については、より実効性が高く、個々の教師の振り返りがしやすいように年間を通して見直しを図る。

【本取組の大まかな流れ】

年度当初

- ・「めざす児童のすがた」を低・中・高学年ごとに見直しを図る。（全ての教師）
 - ・「授業づくりチェックシート」及び「学習の約束」についての見直しを図る。（学び部の提案）
 - ・特別支援学級（みのり学級）については、共通に取り組むことができる部分とそうでない部分を精査し、別途、研究の進め方を確認する。
- ① 「授業づくりチェックシート」を基に、自らの「強み」「課題」を洗い出す。
 - ② 自らの授業における課題、及びその改善の手立てについて個人で考え、小グループ内で情報交換を図ってブラッシュアップする。
 - ③ 各自、授業を実施する教科、時期、単元（題材）などの計画を作成する。
 - ④ 全体研において、それぞれが取り組む課題や授業実施計画について公表し、全体で共有する。

事前

- ・1週間前までに実施する校時、教科、単元などを研究主任と教務主任に伝える。
教務主任は小グループのメンバーが授業参観できるように調整を図る。
- ・課題改善の手立てを記した「授業構想シート」を作成し、2日前までに全教職員に配付する。
（さらに、所定の場所にデータ保管し、誰でも見るようにしておく）

本時

- ・参観するメンバーは、授業の妨げにならないように参観する。（勝手に指導したりしない）
また学年に応じて、参観者が来る旨とその理由を児童に説明し、普段通りの授業が行われるようにする。
- ・授業者、参観者（必要に応じて児童）は、授業後に評価シートを用いて簡単な評価を行い、記録しておく。

事後

- ・授業者、観察者（必要に応じて児童）は、評価シートを用いた評価の結果を参考にしながら、できるだけ間を置かず、小グループでの振り返りを必ず行う。

- ・評価結果を参考にしながら明らかになった相違点などを話題にするとよい。
- ・授業者は、振り返りの内容などを踏まえて、「My 授業研の振り返り」を記録する。
- ・授業者は、振り返りを基に新たな課題を設定し、次回にむけて授業改善に努める。

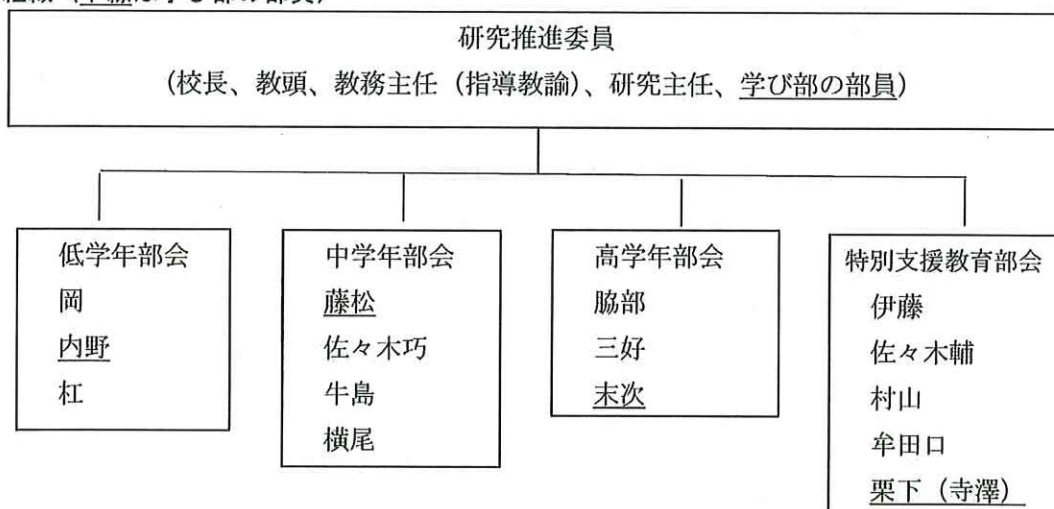
年間を通して

- ・小グループでの振り返りの内容や課題解決の進捗等について、全体での共有を図るための機会を全体研として学期に一度程度、位置付ける。

年度末

- ・年間4回の授業の振り返りを「My 授業研の振り返り」にまとめるとともに、自らの年間を通した課題解決の状況や達成度、次年度に向けての課題などについての振り返りをA4ワンペーパーにまとめて、「研究のまとめ」とする。

5 研究の組織（下線は学び部の部員）



※指導教諭は自らも他の教師と同様に取り組み、範を示すとともに、できる限り、全ての教師の授業を参観し、小グループでの振り返りに参加するなどして指導教諭として指導助言を行う。

※管理職（校長・教頭）についても、可能な範囲で全ての教師の授業を参観し、要請に応じて、小グループでの振り返りに参加するなどして、指導助言を行う。



【1回目】

6月24日(月) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
「どうやってみをまもるの かな」 (3/7) 本時の目標 「やまあらしのみのまもり かたたしかめよう」	・子どもがやりたいと思える課題を「動物図鑑作り」と設定し、単元の流れを常に掲示していたことで、子どもに今日何を頑張るのかを分からせることができた。 ・意図的に間違えた絵の順番を考えて変える活動は良いが、文の順番を考えるのはこの時期の子どもには難しかった。 ・時間配分が悪く、振り返りの時間が十分に取れなかった。	・対話的な学びを意識する。 ・教師側が意図をもって、振り返りをさせる。

【2回目】

10月2日(水) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
「3つのかずのけいさん」 (1/3) 本時の目標 3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。	・今までの計算とどんなところが違うかを考えさせた。 ・「絵が3枚もある」「何回も増えている」とねらいに沿った気づきができた。 ・どんな式になるか考えさせた時、教師が出してほしい式が出なかったり、想定していない式を書く子がいたりして、どの式がいいのかを吟味させることができなかった。	・子どもたちがどんな考えを出すのか、もっといろいろなパターンを想定しておく。

【3回目】

12月12日(木)2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 音楽		
「がっきとなかよくなろう 『シンコペーテッドクロック』(1/2) 本時の目標 とけいをあらわすがっきのねいろや、リズムに 気をつけてきこう	・時計を表す楽器は何か、どんな様子を表しているかについて、1時間集中して音楽を聴くことができた。 ・教師が、シンコペーションのリズムを聞き取れている子を見取ることができなかった。聞き取れている子どもはいた。 ・「この曲の面白い所を年長さんに教えよう」と子どもに呼びかければ、ねらいに沿ったこの曲の良さを書いたり言ったりすることができるのではないかと。(2時目で行った)	・子どもからどんな言葉を引き出したいのか、どんなことが書ければいいのかをもっと考えて、発問や手立てを考えた。

【4回目】

2月12日(水) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 道徳		
教材名「どんぐり」 内容項目 「正直な心」(A:正直、誠実) 本時の目標(簡潔に) うそをついたりごまかしたりしないで、明るい心で生活しようとする心を育てる。	・「気持ちの顔マーク」を使ったり、役割演技をしたりすることで、登場人物の気持ちになりきることができた。 ・「この後、ようすけは本当のことを言ったかどうかを」「いう」「いわない」の2択で考えさせ、なぜそう思うか理由まで問うことで、「正直な心が大切だ」ということの価値に近づけたと思う。	・「気持ちの顔マーク」は低学年の児童にとっても有効だと思った。

校内研究の振り返り

岡 真由美（1年1組担任）

今年度の自分自身の課題

- ・子どもが取り組みたいと思える課題の提示、導入の工夫
- ・児童が思考したり、考えたことを対話したりする時間を設ける。
- ・何ができるようになったか、次はどうしたいのかを子ども自身が考えることができるような振り返りの時間を設ける。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・「めあて」の提示は、確実にやってきた。子どもが「取り組みたい」「頑張ってみよう」と思えるような「めあて」を心がけてはきたが、子どもの興味や生活の中で役立つことと単元とを関わらせることは難しかった。
- ・児童が思考するような発問を心がけてきた。国語科や算数科、道徳等で、児童の様々な意見に対して、「同じか、違うか」「似ている」「少し違う」の観点で聞き、意見を言うことができるようになってきた。算数科では、自分の考えを書いたものを見せながら友だちに説明したりできるようになってきた。また、考えたこと（図等）を黒板に全部ではなく少し書かせ、続きを交代で書かせたり、交代で説明させたりして、みんなが思考できるようにした。
- ・授業の振り返りは、「どんなことが分かりましたか」と問い、この1時間で分かったこと、できるようになったことを話したり書かせたりするようにした。次の時間の導入で、前時の振り返りを生かすことができた。時間が無い時は、◎○△で評価させた。

○取組の成果と課題

- ◇「仲良くペアで活動する」ということを目的に、まずは、国語科の一文交代読み等、隣の人といっしょに声を出す活動から行った。その後、算数科や道徳等でペア活動を仕組んだ。少しずつではあるが、自分の考えを進んで発表する児童が増えてきた。
- ◇授業研を通して、前よりも単元を通して身に付けさせたい力が何なのか、この1時間で身に付けさせたい力は何なのかを意識するようになった。
- ◇他の先生に見てもらうことで、自分が気付かなかった子どもの良さ、改善点、自分の指導の改善点を示唆いただき参考になった。
- ◆振り返りの時間を確保できないこともあった。1授業時間の中での時間配分を事前によく考える必要があった。
- ◆毎時間の中で、児童に任せる時間が取れなかった。1年生なりに児童に任せる、そしてさせっぱなしにならず、意味のある対話的な活動を適切に仕組んでいかなければと思った。

【1回目】

5月 31日(金) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
単元「あわせていくつふえるとい くつ」(3/8) 本時の目標 ・増加の場面を加法の式に表し、 答えを求めることができる。	具体物を活用することができたが、児童が主 体となって考えると言うより教師が児童にただ 教えるような授業になっている部分があった。 めあてとまとめを関連させたものにでき、本時 で学習したことを児童とまとめることができた。	・児童が主体となって行 う活動を取り入れたい。 ・段階を踏んで、学習を 進めていけるようにす る。

【2回目】

6月 28日(金) 4時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
単元「どうやってみをまもるの かな」(4/6) 本時の目標 ・あるまじろのみのまもりかた をたしかめよう。	あるまじろになりきって、身を守る動作活動 はほとんどの児童が興味を持ってできた。普段 の授業における「学習の約束」が定着できていな いので発表の仕方、呼ばれら返事をすると言っ た基本的なところの定着を図る必要があった。 まとめの前から少しずつ集中力が続かない児童 も出てきたので、授業の間に児童の注意が前に 向くような工夫が必要であった。	・「学習の約束」の定着 ・児童の集中が続かなく なってきたときの新たな 活動を取り入れる。

【3回目】

11月 1日(金) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 学活		
単元「たべもののひみつをし ろう」(1/1) 本時の目標 ・食事の理由、食べ物の働きを 知り、自分に合っためあてを 考えることができる。	本時の学習についての関心をもってもらうために、 クイズをして本学級の普段の食事について触れていっ た。実際に本学級の給食での残菜の写真を見て、どう したらよいか、もっとこうしようと一人一人考えるこ とができた。グループ活動を通して、食べ物にはそれ ぞれ栄養、体への影響があることを知り、食事の大切 さを学習できた。	・多くの活動をして、何を 目標としているのか、わ かりにくくなっていた。 ・活動について簡単に、 誰でもすぐに活動でき ることを意識した授業づく りをしたい。

【4回目】

12月 6日(金) 3時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 体育		
単元「ボールゲーム」 (6/8) 本時の目標(簡潔に) ・攻めたり守ったりしながら、 ゲームを楽しむことができる。	単元の始めから、学習の流れを決めておき活 動時間を多く確保できるようにした。チャレンジ タイム・練習の時間を設け、「2人でコーナー」、 「シュートコーナー」、「パスコーナー」、「ドリブル コーナー」に分かれて体を動かすことができた。 並んでいる児童の実態を配慮してゲームの人数 を伝え、行った。活発的にゲームに取り組み、ど の時間でも意欲的に行っていた。	・振り返りの時間があま りとれていなかったの で、授業終わりの5分は 振り返りの時間にどの授 業でも行っていく。 ・ゲームの時の指示され た人数の1対1が多かつ たので、2対2や3対3を もっと増やしていく。

【5回目】

1月24日(金) 4時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 道徳		
題材「それって、おかしいよ」 本時の目標(簡潔に) ・よいことと悪いことについ て区別し、よいと思うことを 進んで、勇気を持って行おう とする態度を育てる。	「心のものさし」を使って、自分の気持ちと友 だちの考えを共有し合うことができた。あらすじ を振り返りながら、登場人物の気持ちを考えさ せることができた。自分事として考えさせる場 面を作っていくと、もっと児童の興味・関心をも たせることができると感じた。	・教師の経験談に真剣に 聞くことができていたの で、もっと取り入れてい きたい。 ・児童の関心と自分事と して考えることができる ように役割演技も取り入 れていきたい。

校内研究の振り返り

内野 滉太（1年2組担任）

今年度の自分自身の課題

- ・学習内容によって学習形態を変えることを意識し、子どもに委ねる場面を増やす。
 - ・児童同士の対話的な活動（ペア・グループ）を行う。
 - ・学習の見通しがとれるようなめあてにする。
- 授業のはじめに前回の振り返りを行って、前回の授業と関連させて授業を進める。
- めあてに対応しているまとめをする。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・どの時間の学習でも適切なめあてを提示することを心がけて行うことができていた。めあてに対してまとめを提示していないこともあったので、適切なめあてとまとめを提示していく。
- ・個別・ペア・グループ・全体の流れで毎時間学習を進めていくことはできていなかったが、クラスの実態に合わせて、ペア活動を多く取り入れ、話し合う機会がつかれていた。

○自分自身の課題について

- ・ペア活動を多く取り入れているが、いつも同じようなグループ活動の仕方になってしまうので、児童が話し合いに意欲的に参加できるような工夫ができるようにしていきたい。
- ・振り返りの時間を児童が進んでできるようにいつも5分は確保できるようにしたい。
- ・ノートのとり方について児童に詳しく説明できていなかった。ノートではなくプリントの活用が多かった。
- ・児童らの学習の決まりが定着させはじめが遅かったので、新学期当初から意識させていきたい。

○取組の成果と課題

- ペア活動を多く取り入れることで、積極的に発表をしたり、説明をしたりすることができる児童が増えた。
 - 導入では、よく教師の体験、経験を話していた。導入で児童の興味をひき、学習に繋げていくことができていた。
- △集中力が続かない児童もいたので、区切って活動を行うという考え方もあると知った。
- △普段の学習でもあるが、児童の発言を一つ一つ拾い、大切なところに時間をかけることができないことが多くあるので、机間指導や意図的指名が必要なところとの見極めを行う。
- △個人やペアの活動では、早く終わった児童が暇をもてあます場面が多くあったので、早く終わった児童への工夫を考え、実践していきたい。

【1回目】

7月 8日(月) 5時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元「水のかさ」 (6/8) 本時の目標 水のかさの計算の方法を考えよう。		・L・dL・mLの教材を見ながら、単位の違いやかさの違いに気付き、計算の方法をよく考えることができていた。 ・グループ活動の時間が短く、児童の意見交流が不十分になってしまった。	・発表の方法を工夫して、児童が発言できる場を設定していく。

【2回目】

10月 7日(月) 2時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元「正方形と長方形」 (2/10) 本時の目標 三角形や四角形を見つけよう。		・グループ活動をさせることで、いろいろな意見を出し合いながら、見つけることができていた。 ・時間配分ができておらず、グループごとの意見を全体に共有する時間が十分にとれなかった。 ・板書とノートの記述方法が違い、児童がスムーズに取り組むことができていなかった。	・ペアやグループ活動を引き続き取り入れ、自分の意見を発言できる場を設定していく。 ・教材を統一させ、児童が考えやすい工夫をする。

【3回目】

11月 27日(水) 2時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	道徳		
題材 「三くみ 大すき」 本時の目標(簡潔に) 学校の人々に親しんで、学級での生活を楽しくしていこうとする態度を育てる。		・ペア活動や、グループ活動を取り入れることで、進んで発言を行うことができた。 ・「なるほど」を書かせることで、友達の発言を聞きながら、自分の考えを深めようとすることができていた。 ・自分の意見を書くことができない児童も、友達の意見を聞いて、書くことができるようになってきた。	・ペア活動、グループ活動だけでなく、子どものスピードにあった話し合い活動ができるように、活動の工夫をする。

【4回目】

2月 18日(火) 3時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	体育		
単元 跳び箱あそび (6/8) 本時の目標 きまりを守って、跳び箱を跳ぼう。		・活動時間を長く取ることで、児童が跳び箱にたくさん取り組むことができた。 ・跳び方や、踏み切り方など、質問することで、児童が工夫しながら取り組むことができていた。 ・振り返りに、自分のできたことだけでなく、友達の良いところも書くことができるようになってきた。	・活動の中で、友達の良いところや、気付きを伝え合う時間を設定していく。

校内研の振り返り

杠 彩生(2年1組担任)

今年度の自分自身の課題

- ・ペア活動やグループ活動を取り入れ、児童が考えを伝えることができる場を作る。
- ・児童の考えを深めるような発問や、問い返しを行う。
- ・振り返りの時間を設ける。
- ・ICT教材を活用する。

○ 授業づくりチェックシートの活用について

- ・「めあて」の提示は、意識して行うことができた。教科や単元によっては、子どもの言葉を使って書くようにしてきた。まとめを書くときにも、子どもの発言を活用することを意識して行った。繰り返し行うことで、子どもが学習に興味をもって取り組んだり、自分で書こうとしたりすることができるようになった。しかし、「めあて」や「まとめ」を提示していないこともあったので、毎時間提示できるようにしていきたい。
- ・全ての授業で、ペア活動やグループ活動、全体活動などの交流する活動を取り入れ、子どもが発言できる場を積極的に設けるように意識して行った。繰り返し行っていくことで、自分の考えを相手に伝えることが苦手な子どもも、話す・伝えるができるようになってきた。また、挙手をして発言をしたり、みんなの前で発表・説明したりすることができる子どもが増えてきた。
- ・振り返る時間を設けるよう意識して行った。振り返りをする時には、◎・○・△だけでなく、言葉で書くように促した。しかし、振り返りの時間を十分にとることができなかったため、振り返りの時間を取ることができるよう、授業内の時間配分を工夫していきたい。

○ 取り組みの成果と課題

- ◇子どもの発言を深めるような発問を行うことで、発表している子どもだけでなく、周りも考え発言し、クラス全体で考えを深めていくことができた。また、子ども同士で発言・質問を行うことができるようになったり、ノートにより詳しく説明を書いたりすることができるようになった。
- ◇対話的な活動をすべての授業で取り入れたことで、子どもが自分の考えを発言することができるようになった。また、子ども達が自然と話し合う姿が見られるようになった。
- ◇学年グループの先生方の授業を参観することで、授業内での工夫や子どもへの声掛けなど、大変勉強になった。また、自分の授業を先生方に客観的に見てもらい、事後研で話し合うことで、授業に生かすことができた。
- ◆グループ活動を積極的に取り入れることができたが、役割分担ができておらず、スムーズな活動ができない時があった。グループ内での役割をしっかりと伝え、子ども一人一人が意欲的に話し合いに参加できるような工夫をしていきたい。
- ◆振り返りの時間の確保が不十分であった。振り返りができずに終わる授業もあったので、授業展開や、時間配分をしっかりと見直し、振り返りの時間を十分に取れるようにしていきたい。
- ◆電子黒板でデジタル教科書を使うことはできたが、子どものICT機器を活用することができなかった。子ども達が考えを深めたり、考えを伝え合ったりするときに活用していきたい。また、子ども達がICT機器に慣れ親しむことができるよう、休み時間や様々な授業内で使うような工夫をしていきたい。

【1回目】

6月24日(月) 4 時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
単元 物語文 「ワニのおじいさんのたから物」 (5/8) 本時の目標 「ワニのおじいさんがたから物を あげた理由を考えよう。」	・グループ活動の機会を続けてきて、話し合いの進め方に慣れてきている。 ・なかなか自分の考えを思いつかない児童も、友だちの意見を参考にすることで、何かしら書けるようになってきている。 ・多様な考えに触れることで、物語の読みの面白さを味わうことができていた。	・話し合いの型を決めて進めてきているので、十分に慣れさせて発展的にできるようにさせていきたい。

【2回目】

9月6日(金) 2 時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
単元 「あまりのあるわり算」(6/7) 本時の目標 「あまりに注目して、問題の答えを考えよう。」	・わり算で出た答えと余りをどうするか、よく考えていた。一人で答えが出せない子も話し合う中で理解を深めていた。 ・図や式の余りを指しながら説明したり、説明の話が図や式の中に見えてきたりするような書き方ができるといい。 ・グループ活動を繰り返すことで、よく話せるようになってきている。	・挙手をする子が決まっているので、意図的に話さなければいけない場面を設定していく。 ・説明の言葉（考えがわかるような言葉の使い方）を磨いていく。

【3回目】

11月 6 日(水) 2 時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 道徳		
題材 「教えて！なんでも相談室」 内容項目 C: 勤労・公共の精神 本時のねらい 働くことの大切さを理解し、進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。	・心の円を使うことで、全員が自分の考えを皆に話すことができていた。 ・グループで意見をまとめるという目的があることで、お互いの考えに質問したり同調・反対したりするよいきっかけとなっていた。 ・展開からまとめがうまくつながっていなかった。本時では、多様な意見に触れ、子ども同士がお互いの意見を伝え合うことができていたので、感想を書くだけでもよかった。	・話し合い活動を継続してさせていく。 ・グループ活動の際の全体把握をするための手立てを考えたい。

【4回目】

1月23日(木) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
単元 「分数を使った大きさの 表し方を調べよう」(8/10) 本時の目標 分数のたし算の計算ができることを式や図を用いて考えることができる。	・だれがどの考え方を使っているかをホワイトボードを使ってみんなに分かるように示したことが、効果的だった。指導者が全体把握できる良さと児童同士が目的をもって交流できる良さがある。また、授業の中に全員が参加できているということがわかってよい。 ・図や数直線と式との対応を説明段階でしっかりとおさえることが必要。 ・それぞれの考え方を見比べさせて共通点を見つけさせていくところが数学的思考につながるところなので、もっと児童まかせにしてもよかった。	・児童が目的をもって意見交流できるような場をいろいろな教科で設定していく。

校内研究の振り返り

藤松 千晃（3年1組担任）

今年度の自分自身の課題

- ・学習内容によって学習形態を変えることを意識し、子どもに委ねる場面を増やす。
- ・児童同士の対話的な活動（ペア・グループ）を仕組む。
- ・できれば子どもたちが自主的に形態を決めることができるようになるところまで鍛えたい。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・「めあて」の提示は、確実にやってきた。めあてに対するまとめも教科によっては、子どもの言葉をひろってまとめたり、時には各自でまとめせたりしてきた。繰り返していくことで、子どもたちも自力でまとめることができるようになってきた。
- ・振り返りの時間は十分とはいかないが、毎時間とるよう心がけた。言葉での振り返りも時間がある時にはできるだけ書くように促した。子どもの振り返りに対して、次の意欲につながるようなコメントを工夫したい。
- ・いろいろな教科でペア、グループ活動をそれぞれに仕組んだことで、話す力が確実についてきているのを実感した。意図して話す機会をとることで、苦手な子どもも何とか話そう、伝えようとする姿勢が見られるようになった。繰り返すことで、自信につながり、挙手して発表する児童が増えてきた。

○取組の成果と課題

- ◇学年グループの先生方のいろいろな教科を参観することができ、大変参考になった。特に、音楽科や社会科は見る機会があまりなかったなので、勉強になった。また、学年グループで見合うことで、隣のクラスの実態や学年としての課題も見えてきたことは、よかった。算数以外の教科でも系統性が明確になってよかった。
- ◇自分の授業を他の先生方からの視点で質問、指摘をしてもらったことは、ひとりよがりにならずによかった。
- ◇いろいろな教科で対話的な活動を仕組むことで、子どもたちが自分の考えを伝えよう、話し合おう、とする姿勢が身に付いた。こちらが仕組まなくても、子どもたちから「ペアでしたい」「話したい」「紹介したい」という言葉が多く聞かれるようになった。
- ◆対話的な活動が苦手な児童への支援や、自分の考えを表現する力をつけていくことがとても大事で、特に下の学年のうちから力を積み重ねていくことの必要性を感じた。
- ◆一授業時間の中での時間配分がうまくいかないことがあったので、まとめ・振り返りの時間を確保できるよう、まだまだ工夫できるところを探していきたい。
- ◆ペア・グループ活動をしている際の全体の把握ができるように手立てを考えていきたい。

【1回目】

7月4日(木)2時間目		授業後の振り返り	次回への見通し
教科等	算数	(課題解決の取組についての自己評価など)	(次回、取り組みたいこと)
単元 暗算(1/2) 本時の目標 暗算の計算の仕方を工夫して考え、友達に説明することができるようになる。また、暗算を生活に生かすことができるようになる。		例示や商品カードについて、意図をもって絞っておけばよかった、1けたの数があったが、それは除いてもよかった。 さくらんぼ計算だけでなく、何十とみて計算する方法を取り上げる必要があった。「多めに見積もる」という見方を育てたい。また、児童がキーワードを発言できるように仕組みが必要があった。	めあてとまとめ、ふりかえりを児童の言葉で作るが、教師自身が身につけたい力とかけ離れないように注意をする。 教材をもっと研究していきたい。

【2回目】

10月11日(金)5時間目		授業後の振り返り	次回への見通し
教科等	社会科	(課題解決の取組についての自己評価など)	(次回、取り組みたいこと)
単元・題材・領域 はたらく人とわたしたちの暮らし(1/2) 本時の目標 資料を基に生産者や販売者の仕事の工夫と消費者の願いを関連付け、生産や販売に見られる工夫について考え、表現する。		資料を選び、根拠のある意見をもつことがまだ不慣れで、難しいところであったので、何度も経験させて慣れさせたい。ただ、意識づけることはできた。 生産の学習を思い出すことが難しかったため、資料の作り方をもっと工夫する必要があった。 付箋などを使って、児童の意見を収集し、分別することも大切だと感じた。	今後も根拠のある意見をもつことができるよう、工夫したり助言したりすることが大切だと感じた。

【3回目】

11月7日(木)5時間目		授業後の振り返り	次回への見通し
教科等	音楽科	(課題解決の取組についての自己評価など)	(次回、取り組みたいこと)
単元・題材・領域 いろいろな楽器の音色を組み合わせる音楽をつくろう。(4/5) 本時の目標 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。		イメージが抽象的だったので、もっと具体的に場面を想像させることができれば、よりよい音楽が作れるのではないかと考えた。スコアをつくる活動と楽器を演奏する活動の往還がもっとスムーズにやりやすくなるよう工夫をする必要があったと感じた。音楽の仕組みを使って工夫をするに関しては、日ごろの常時活動から取り組んでいきたい。	日ごろから音楽の仕組みを使うとどんな効果があるのか考えたり、思考のよりどころとなる要素を焦点化したりして授業をしていきたい。

【4回目】

1月16日(木)3時間目		授業後の振り返り	次回への見通し
教科等	音楽科	(課題解決の取組についての自己評価など)	(次回、取り組みたいこと)
単元・題材・領域 おはやしの音楽をつくろう(3/4) 本時の目標 前時につくった2小節の旋律を持ち寄って、おはやしの音楽をつくり、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。		今回は「旋律」「その反復・変化」を思考のよりどころとしたが、手一杯になっていたように感じた。旋律のつなげ方の工夫は児童には難しいように感じたため、さらに焦点化する必要があったと感じた。志民視学官のお話で、金立鉦浮立の鑑賞の活動で反復や変化の効果について触れ、そこから常に意識させることができると、スムーズに工夫を考えることができると教えていただいた。	引き続き、音楽の仕組みや思考のよりどころとなる要素を焦点化していくようにしたい全国大会の授業に向けて教科横断的な視点で題材づくりを行っていけるように、勉強していきたい。

校内研究の振り返り

佐々木 巧（3年2組担任）

今年度の自分自身の課題

- ・児童の発言が中心になるためのしかけ・発問づくり
- ・児童の実態・レベルにあった授業づくり

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・「めあて」はほとんどの授業で設定することができ、また、だんだんと児童の言葉を取り入れながらめあてを設定することができた。また、達成状況を個人で考えることができるよう、「考えよう」「説明しよう」などいくつか選択肢を提示することができた。
- ・「振り返り」については、単元の最後や授業の必要な時に設定することができた。また、振り返りのポイントを毎回伝え、そのポイントに沿って振り返ることができた。ただ、振り返りの内容は個人差があるため、まずは振り返ることを習慣づけることはできたと感じる。

○取組の成果と課題

- ◇国語科や社会科などは、児童の発言が中心となるように、今年度は「問い」を意識して活動できるようにした。子どもたちの疑問や解決したいことを単元の最初で考えさせるようにした。そうすることで、課題意識をもって子どもたちが授業に取り組むことができるようになった。
- ◇音楽科では、研究授業を2本行い、児童の実態やレベルに合うように導入やワークシートを工夫することができた。他教科でも、実態に合わせて授業中練習問題を多めにしたり、考える時間を増やしたりなど対応するようにした。
- ◇全教科通してめあてを達成しようとする児童がほとんどであった。そのめあてを達成できるように、「話し合いたい」「発表したい」など児童自身が学習形態を決めることができるようになった。
- ◆「問い」を意識して活動し、習慣づけることはできたが、全員の児童がふさわしい「問い」を設定することは難しいように感じた。いくつか選択肢を提示するようにしたが、それに頼って自分で考えて問いをつくることはまだまだレベルが高いと感じた。
- ◆音楽科で、音楽づくりを2本研究授業で行ったが、もっと音楽の知識・技能を常時活動等で身に付けることが必要だと感じた。また、志民視学官からお話いただいたように、思考力・判断力・表現力等の形作っている要素や音楽の仕組みをさらに焦点化して授業をつくっていききたい。
- ◆全教科を通して「一日一回発表」を心がけるようにしたが、学習が難しくなると自信がなく発表する児童が減った。今後も自信をもって発表ができる安心した環境づくりを徹底していきたい。

【1回目】

7月 8 日(月) 3時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
単元・題材・領域 小数のしくみを調べよう (11/13) 本時の目標 小数も整数と同じようにいろいろな見方ができるか考えよう。	・予想される児童の考えを自分でもち、児童のノートを見ながら板書する児童を当てることができた。 ・〈考える〉のところで、時間が押してしまいベアワークを入れることができなかった。 ・〈考える〉のところで、板書が終わるまで全体が待っていた時間がもったいなかったのもう少し早く書かせるべきだった。	・〈見通し〉の出し方をどのくらい出させるのか。 ・板書は系統性をもって行い、出てきた意見を「グループ分け」や「名前を付ける」など一般化する。

【2回目】

10月 8日(火) 3時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 音楽		
単元・題材・領域 「聖者の行進」を合奏しよう (4/5) 本時の目標 曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのようにえんそうするか思いや意図をもつ。	・演奏を聴く側の児童が聴くことに集中するため手立てがなかった ・めあては児童にわかりやすく明確なものにする。 ・学習の足跡などここまでの学習を振り返る掲示物を準備しておく。	・授業のしやすい場づくり ・児童のわかりやすい明確なめあてや評価基規準 ・授業の内容が深まる声掛け

【3回目】

12月 5日(木) 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 音楽		
単元・題材・領域 (4/5) 本時の目標 曲の特徴を捉えた表現を工夫し、自分の楽器や全体としてどのように演奏するかについて思いをもつ。	・「本時の振り返り」と「合奏の比較」ができなかったため時間配分を考えたい。 ・技術面は児童が上達を感じられるような教師の助言が必要。 ・必要に応じて ICT 機器を使った学習の振り返りを行うことができた。	・ICT 機器を使う場合子ども達にタイピングなどの技術を付けさせる(時間短縮) ・グループ活動の人数を活動に応じて考える

【4回目】

1月 15日(木) 3時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 音楽		
単元・題材・領域 (2/2) 本時の目標 曲の旋律、音の重なりを聞き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さなどを感じ取りながら曲の紹介文を書く。	・前回の反省を踏まえて、振り返りまでを45分間に入れることができたが、途中強引な誘導があったと感じる。 ・子ども達が「感じ取ったこと」「聞き取ったこと」を書きやすくなるように手だてを取るべきだった。	・語彙集などを準備することもできるが子ども達の考えを狭めてしまう可能性もある ・板書する内容を厳選する。 ・モデルを出しすぎない

今年度の自分自身の課題

- ・授業構成をしっかりと立て、リズムの良い授業をすること。
- ・児童の実態に応じて、予想される児童の意見をあらかじめ考えておくこと。
- ・ペアやグループなど、自分の意見を言う時間を、1コマの授業のうち少なくとも1回は設けること。
- ・児童の思いや考えを授業の中で聞き、その内容を授業内で活かせるように机間指導の工夫や ICT 機器の活用をすること。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・「めあて」の提示はどの教科でも意識して行うことができた。また、提示する際に一緒に「振り返りの視点」をあげることで、子ども達自身がその授業における振り返り・評価をしやすいようにできた。しかし、毎授業ではできなかったため、今後の課題であると感じている。
- ・今年度の課題にも挙げていたように、ペアやグループ活動など児童が対話的に思考する場面を、教科を問わず設けることができた。しかし、ペアやグループによって適切な話し合いが難しい場面もあった。今後は、課題を提示する際に、子ども達に何を解決するための話し合いなのかを明確に伝えることや、話し合いをより深めるために教師の適切な声掛けやゆさぶりの発問も大事にしていきたいと感じた。

○取組の成果と課題

- ◇授業を行う前に、予想される児童の発言を考えておくことでテンポの良い双方向の授業を行うことにつながった。
- ◇ペアやグループ活動、席を立っての自由な話し合い活動を通して、その後の全体発表（共有）の場でも多くの子が挙手をして発表することができるようになった。また、子ども達から「話し合いしたいです」という声をあげることも多くあったのでよかった。
- ◇いろいろな先生方の授業を参観することができ、その後の事後研で話し合うことで、他の先生が行った授業を自分の授業にも生かしていくことができた。
- ◆子ども達の考えを深めたり、振り返りを行ったりする際に、ICT 機器を使うことは多くの授業で行うことができたが、子ども達のタイピングなどの活用能力が付いておらず、上手く使うことが難しい児童もいた。ICT 機器を「使うことが目的」の授業にならないように、授業構想の段階で場面に適した活用を考えていく必要があると感じた。
- ◆授業時間内に振り返りまで行うことができないことがあった。45分の中で必要なことをしっかりと見極めて授業を構想、展開していきたい。
- ◆グループ活動をする際の人数設定。課題に応じたグループの設定をして全員が話し合いに参加できるようにする。また、させっぱなしではなく考えを深める教師の声掛けを行う。
- ◆板書の仕方。子ども達は板書したことを全て書き写そうとすることが多いので、児童の発言を安易に板書するのではなく、授業の展開で必要なことを厳選して適切に板書をしていきたい。

【1回目】

7月 8日(月) 2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
単元・題材・領域 合同な図形(5/8) 本時の目標(簡潔に) 合同な三角形のかき方を理解し、必要な構成要素を調べて合同な三角形をかくことができる。	意見交流の時間には積極的な意見の交流が見られた。しかし、仲の良い友達同士での交流が中心となってしまう、本来の目的であった自分の考え以外のものに触れることができずに終わる児童が見られた。	様々な意見に触れられる声掛けなどを仕組んでいきたい。

【2回目】

11月 27日(水) 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 体育		
単元・題材・領域 ソフトバレーボール(3/7) 本時の目標(簡潔に) 記録をもとにチームにあった作戦を考え、聞いたり伝えたりしている。	作戦タイムでは、「アタックの得意な〇〇さんにボールをつなごう」、「キャッチした後早く攻撃すると点数を多くとれる可能性が増えそう」などの話し合いが行われていた。チーム内のみんなでチームのめあてに向かう話し合いが見られた。	チーム内の様々な意見に触れることはできた。次は、一人で異なる意見に触れる場面づくりを行いたい。

【3回目】

12月 11日(水) 4時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 算数		
単元・題材・領域 四角形と三角形の面積(9/11) 本時の目標(簡潔に) 台形の性質に着目し、台形の面積の求め方を平行四辺形や三角形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明している。	学び合いの場面では、自分と異なる考えに触れ、説明を聞きながらその違いを確認することができていた。深め合いの場面では、自分の考えと異なる考えについて説明させたことで、より深い学びにつなげることができた。	次回は、自分と異なる考えに触れた後、自分の考えに変化が生まれるかどうかについて考えさせる時間を設けていきたい。

【4回目】

1月 23日(木) 1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
単元・題材・領域 いにしえの人のえがく世界(5/5) 本時の目標(簡潔に) 「話すこと、聞くこと」において、文章から伝わる音や色などについての表現を感じながら聞くことができる。「話すこと、聞くこと」において、文章から伝わる音や色などについての表現を感じながら聞くことができる。	学び合いの場面では、季節に対する自分と異なるものの見方に触れ、感じ方や表現の良さについて確認することができていた。友達の表現の良さを発表するようにしたことと自分と友達の表現などの違いに気づき、新たな見方を獲得することもできていた。	次年度は、学び合いを行う前と後での考えの変化について比較してみる時間を設け、なぜ変わったのかなどについて考えさせていきたい。

校内研究の振り返り

脇部拓也（5年1組担任）

今年度の自分自身の課題

- 基礎・基本を身につける個人の学習についてはできているところもあるが、意見を出し合って自分の考えを深める学習をうまくできていない。
- ペアやグループでの活動を通した「深める」学習に取り組めていないことが多かったため、そういった活動を増やして理解の深化を進めていきたい。

○授業づくりチェックシートの活用について

・「めあて」の提示については、どの教科でも確実にやってきた。めあては問題を確認したあとに子どもたちの言葉を拾いながら、一緒に考えてみることも行ってみた。「まとめ」については、めあてとリンクしていることを意識して提示した。まとめも、めあてと同じく子どもたちの言葉を拾いながら一緒に考えてみることを行った。何度か行ったことで、その授業の視点が子どもたちの中で確実に定まったと感じる場面が増えた。

・色々な教科で、二人もしくは小グループの話し合い活動を取り入れたことによって、自分の考えを伝えることができる子どもが増えてきた。高学年ということで全体での発表が苦手な子どももいるが、少人数で発表し合うことで安心して伝えられている様子も見られた。

○取り組みの成果と課題

◇作戦タイムでは、「アタックの得意な〇〇さんにボールをつなごう」、「キャッチした後早く攻撃すると点数を多くとれる可能性が増えそう」などの話し合いが行われていた。チーム内のみんなでチームのめあてに向かう話し合いが見られた。

◇学び合いの場面では、自分と異なる考えに触れ、説明を聞きながらその違いを確認することができていた。深め合いの場面では、自分の考えと異なる考えについて説明させたことで、より深い学びにつながることもできた。

◇学び合いの場面では、季節に対する自分と異なるものの見方に触れ、感じ方や表現の良さについて確認することができていた。友達の表現の良さを発表するようにしたことによって自分と友達の表現などの違いに気づき、新たな見方を獲得することもできていた。

◆意見交流の時間には積極的な意見の交流が見られた。しかし、仲の良い友達同士での交流が中心となってしまう、本来の目的であった自分の考え以外のものに触れることができずに終わる児童が見られた。

【1回目】

7月10日(水) 6時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
「割合の表し方を調べよう」 (5/8) 本時の目標 「小数や分数で表された比を簡単な整数の比に直すことができる」		・めあてとまとめ(ゴール)の確認はできたが、それをつなぐ見通しのもたせ方が確実ではなかった。 ・児童がお互いに考えを交流する時間をとらなかったで、自分で考えることができなかった児童の活動が停滞してしまった。	・対話的な学びを意識する。 ・教師側が意図をもって、振り返りをさせる。

【2回目】

11月 21日(木) 2時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	国語		
「プレゼンテーションをしよう」(5/6) 本時の目標 「根拠を明確にしながら、自分の考えを話すことができる。」		・自分の考えや根拠と資料がうまく結びついていない発表が多かった。 ・聞き手側の評価についても、もう少し視点を明確にして伝えればよかった。	・視点を確認して、資料を整理する力を付けさせていく。 ・発表ごとに、聞き手側にも自己評価をさせていく。

【3回目】

12月 9日(月) 1時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
「順序良く整理して調べよう」 (5/6) 本時の目標 「組み合わせの求め方を図や表を使って表現し、説明することができる。」		・どの方法を使うのが適切かグループで話し合わせておけば、発表にもスムーズにつながったと思う。 ・図を描くのに時間がかかってしまい、全体でのやり取りができなかった。ホワイトボードなどを準備しておけばよかった。	・全体での発表は難しい児童に対し、グループでの活動を仕組む。 ・時間制限を設けた発表の練習をさせる。

【4回目】

2月 27日(木) 4時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	社会		
「日本とつながりの深い国々」 (7/7) 本時の目標 「外国と日本との文化や習慣の違いをもとに、これからの関わり方について考え、表現することができる。」		・グループでの発表にしたことで、すべての児童が発表することができた。発表の時間を決めて、発表内容を整理させておく必要があった。 ・自分が調べたこととの類似点、相違点など相手の発表をある程度予測して、質問を考えるようにしていたが、うまくいかなかった。	・自分の発表をまとめながら、質問を考える習慣付けをする。 ・字数と時間の確認、資料の活用の仕方など、自分の発表スタイルを身に付けさせたい。

校内研究の振り返り

三好 孝晴（6年1組担任）

今年度の自分自身の課題

- ・めあて（身につけさせたい力）の明確化
- ・深く考えさせたり、考えを広げたりする時間の確保のために、中心になる発問を考える。
- ・児童自らが学習を展開していけるような単元作りを試みる。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・単元の初めに、その単元の「目標」と「できるようになること」を確認して、見通しをもって学習を進められるように仕組んだ。また、単元の途中で、学習活動がゴールに向かっていているかを確認させながら修正していくようにした。
- ・発表や話し合いなど、児童の交流の場の設定を取り入れることが計画的にできなかった。児童の実態に合わせて、対話的な活動を仕組んできたが、それをうまく伸ばしていけるような振り返りや改善ができなかった。
- ・振り返りについては、児童の実態に合わせ、友達のことを聞いて思ったことや、次の授業でやってみたいことなど、出来る限り簡単な内容のことを書かせるようにした。振り返りまで含めて授業の計画を立ててはいたが、なかなかそこまでたどり着くことが少なかった。

○取組の成果と課題

- ◇特に国語科において、単元の目標を毎回ノートに書かせることで、ゴールの確認や学習活動の修正が自分でできるようになってきた。何が分かればいいのか、何ができればいいのかが明確になることで、主体的な取り組みが可能になってきた。
- ◇参観いただいた先生方から、アドバイスをいただき、それを事後の授業で実際に取り組んでいくことで、自分の授業改善につながった。
- ◇授業研を重ねながら、児童の課題だけでなく、自分の課題も明確になり、児童と一緒に確認しながら軌道修正できるようになった。

- ◆振り返りについては、選択式にするなど教科や単元に合わせて行っていく必要がある。
- ◆対話な学びについては、児童の実態の確認から、どうレベルを上げていくか中期、長期的に計画を立て、見直していく必要があると感じた。また、主体的な学びを進めていくために、個別最適な学びをどう取り入れていくかも課題である。

【1回目】

7月 12日(金) 1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
単元 ひらがなであそぼう(言語) 本時の目標(簡潔に) 平仮名(清音、濁音)を読んだり 書いたりすることができる。	・ゲーム性を取り入れることで、児童の意欲を引き出すことができた。 ・活動の中にビジョントレーニングの要素を組み込んだが、トレーニングとしての効果は薄かったように思う。	・読みの力を高める指導を①文を読みやすくするため(音韻意識を育てる) ②意味理解を促すための2点に整理し、工夫を行う。

【2回目】

11月 13日(水) 4時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 自立活動		
単元・題材・領域 みのりのお店をひらこう 本時の目標(簡潔に) 気持ちの良い接客を行う。 代金を正確に受け取る。	・実際の硬貨や札を使用することで、臨場感が増し、意欲を高めることができた。 ・お金のマッチングシートがあることで、計算が難しい児童でも、金額を確かめることができた。	・次の単元である校外学習へ向けて、意欲を高めるとともに、公共施設でのルールの確認を行う。

【3回目】

11月 28日(木) 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
単元・題材・領域 説明文「せつちやくざいの今と昔」 本時の目標(簡潔に) 教師の言葉を手がかりに大事な言葉を本文から見つけることができる。(思・判・表)	・ビジョントレーニングを「字を見る力を高めるため」と紹介して取り組ませたので、「上手になったかも」「読んでみる」と音読への意欲が高まった。 ・実物を見せることで、意味理解が深まった。	・音韻意識を育てる活動にゲーム性を持たせた形で取り入れ、児童の意欲を高めながら指導をおこなう。

【4回目】

2月 13日(木) 4 時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 国語		
単元・題材・領域 ことばをあつめよう(2/3) 本時の目標(簡潔に) 見つけたことばをつなげて文をつることができる。(思・判・表)	・活動を計画する際、身に付けさせたいことや押さえておきたいことを絞り切れず、盛りだくさんの内容になってしまった。 ・教科書に出てくる言葉をきちんと押さえられていなかった。 ・児童は大変意欲的に学習に取り組むことができた。	・1時間の中で、つけた力を精選し、活動を絞っていく。

校内研究の振り返り

伊藤 陽子(みのり1組担任)

今年度の自分自身の課題

- ・児童の読む力を高めるために、それぞれの児童の実態に合わせた学習活動を設定する。
- ・ビジョントレーニングを活動の中に取り入れる。
- ・児童の意欲を引き出すような学習活動を工夫する。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・1時間の学習内容がこれまでの復習で終わってしまったり、心身の不調によって学習できなかったりするなど、提示した「めあて」を達成するような学習展開ができないことがあった。
- ・授業で取り組む課題については、児童の実態に応じて学習量や活動時間の調整を行ったり、学習用PCや電子黒板で視覚的支援を行ったりするなど、児童が取り組みやすいよう工夫した。
- ・授業づくりチェックシートシートを用いることで、授業を組み立てる際、1時間を通して児童に身に付けさせたい力を意識することができた。また、授業後にもチェックシートを用いて振り返ることで、改善の視点が明確になった。

○取り組みの成果と課題

- ◇児童一人一人の読みの実態に応じた教材を準備したり、効果的な活動を取り入れたりすることができた。
- ◇ビジョントレーニングについては、トレーニングの具体的な手法について、実践を通して学ぶことができた。
- ◇個人の興味関心の高いことを教材に取り入れたり、絵カードや具体物などを使用したりすることで、児童の学習への意欲を高めることができた。
- ◆同一単元で実態が違う児童への指導を行う際、それぞれにあったペースや学習量、内容で学習を進めることが難しかった。
- ◆前単元までの内容で定着できていないところを身に付けさせることと、本単元で身に付けたい力の両方を求めると、学習内容が増えすぎてしまう。児童の今後の生活に沿って身に付けておきたい大切なことは何かを基に、学習内容を厳選し学習方法や教材を工夫していく必要がある。

【1回目】

7月 1日(月) 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 4年国語		
単元・題材・領域 (2/8) 4コマまんがの2・3コマ目の組み立てを相互のコマの関係に注意して、文章の構成を考えている。	コマの相互の関係を時間に注目して考えたり、物語の山場の場面が盛り上がるように内容を考えたりすることができていた。	デジタルワークシートのみだと、思考が深まらないので、紙のワークシートに書き出した上で、有効にデジタルワークシートを使う必要があると感じた。

【2回目】

10月28日(月)4時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 4年算数		
(1/8) 本時の目標(簡潔に) 計算のきまり ()を用いて1つの式に表す方法を考えている。	・ICTを使う場面で、使うことが目的になって、ICTの有用性をうまく活用できていなかった。 ・絵から具体的な場面を想起させ、興味をもたせることができていた。 ・児童の思考が深まる発問や問い返しをするに当たって、児童の発言を最後まで聴くことができなかった。	ICTの有用性を活用できるように、使う場面を設定したい。 少人数なので、児童の発言を最後まで聞き、対話をしながら授業を進めていきたい。

【3回目】

12月11日(水)3時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 3年国語		
(1/3) 「俳句のイメージを生成AIで作ろう」 本時の目標(簡潔に) 俳句を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	ICTを用いることによって、児童は俳句により親しむことができていた。「オリジナルの俳句を作りたい」などの声もあった。しかし、子供たちは、生成AIを作ることに集中しており、本時の目標「俳句を読んで理解したことに基づいて」という点において、ずれていた。	ICTを正しく、適切に使うことができるように、学習場面に設定したい。

【4回目】

2月25日(火)5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 4年国語		
「考えたことを文章にまとめよう」 (1/12) 本時の目標 単元の見通しをもとう 初発の感想をワークシートに形に合わせて書く。	身につけたい力、言語活動、思考操作を確認することで、見通しをもって単元に望むことができていた。また、初発の感想はワークシートの形を作ることで、3人とも書くことができていた。単元開きでは、教師の話す時間が長くなりがちのため、児童の集中が切れる場面がしばしば見られた。	児童と一緒に単元計画を見直して、見通しがもてるように工夫していきたい。

校内研究の振り返り

佐々木 輔（みのり2組担任）

今年度の自分自身の課題

- ①ICTを用いた学習活動を取り入れる。
- ②児童がやってみたいと思える学習活動を設定することで、意欲的に活動できるようにする。
- ③教師、児童間の対話の中で思考が深まる発問や問い返しをする。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・めあての掲示については、自立活動や算数は1時間ごとにめあてを立てたり、国語は单元ごとに单元目標を立てたり、できるだけ行うようにした。めあては、可能な限り児童の発言から取り入れ、意欲的に取り組めるものになるように心がけた。まともは、学習で分かったことなどを板書に残し、自分たちでまともを考えることができるようにした。
- ・少人数なので、教師と児童間での対話を意識して学習を進めている。思考が深まり、自分たちで課題解決に向かうことができるように問い返しをした。

○取組の成果と課題

- ◇最初は、児童間同士の対話が深まるような活動を心がけたが、まずは個人の意見を出すために、教師と児童間の対話を意識して授業を行った。一人一人問い返すことで、個人の考えを表現する場面が多く見られた。
- ◇ICTを用いた学習場面を毎日取り入れることで、ICTに慣れ親しむことができていた。授業の中でもうまく活用する姿が多く見られた。
- ◇児童の意欲を引き出す学習活動を設定することができた。評価を一緒に考えたり、課題達成時にバッジを付与したりするなど、児童が楽しみながら学習する環境を作ることができた。
- ◆ICTの活用について、学習内容の目標とズレることがしばしばあった。ICTを使うだけでなく、適切に学習に活用できるように考えていきたい。
- ◆児童の意欲を引き出す学習活動を設定できていたが、身につけたい力がついたかどうかでいうと、そうでない授業もあった。児童が楽しく、しっかりと力をつけることができるように学習活動を設定したい。

【1回目】

7月11日（木） 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 5年 算数科		
単元・題材・領域 B 図形 (6/8) 小単元 合同な図形 本時の目標 合同な三角形の作図ができる。 用具の適切な使用ができる。	・児童一人一人が、めあてをしっかりと把握し、見通しをもって学習に取り組む姿がみられた。 ・辺の長さや角の大きさに着目していた反面、必要ではない角の大きさに着目し活動が滞る児童もみられた。	・中学校数学の合同の証明につながっていく内容であるので、合同条件についてしっかりと押さえさせたい。

【2回目】

10月8日（火） 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 1年 算数科		
単元・題材・領域 A 数と計算 (1/10) 小単元 たしざん 本時の目標 9+4の計算のしかたがわかる。	・繰り上がりありの1位数どうしの計算において、10のまとまりに着目しながら、答えへと導き出そうとする姿がみられた。 ・被加数が9の時、加数を1と残りの数に分解して計算をする方法に気付くことができていたと思われる。	・学習者一人一人の気付きや考え、また、疑問に思ったことを集団の中で取り上げ、練り上げていくことについては十分であったとはいえない。

【3回目】

12月19日（火） 5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 5年 自立活動		
単元・題材 頼み方と断り方 (1/1) SST「どうたのむ？ どうことわる？」 本時の目標 相手に配慮した頼み方や断り方について考えることができる。	・相手や時間、場所といった状況に合わせた頼みのしかたについて考え、理解を深めていったように思われる。 ・相手の気分を害さないような断り方について、「断る＝嫌い」ということではないことに気付いていったように思われる。	・「頼む」と「断る」といった立場が逆の2つことについて考える1時間であったが、2つを分けて2時間の単元で行った方が学習も深まるのではと感じさせられた。

【4回目】

1月30日（木） 4時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 1年 自立活動		
単元・題材 聞き方 (1/1) SST「きちんときいてる？」 本時の目標(簡潔に) 人の話を聞く時はどんな聞き方が良いか理解ができる。	・具体例を見ながら良い聞き方をしている子どもを探し、どのようなところが良い姿勢なのかを言葉で説明することができていた。 ・相手の話をよく聞いて、会話を円滑に進める返事の仕方を考える姿が見られた。	・相手に伝わる良い聞き方について具体的な姿勢や動作での理解は深まったと思われるので、今後は日常生活に生かしていく場面を取り入れたい。

校内研究の振り返り

村山 康三郎(みのり 3 組担任)

今年度の自分の課題

- ・日々の授業において、めあての把握から振り返りまでの一連の過程をルーティン化し、学習習慣として児童に定着させる。
- ・少人数であるがゆえに広がりや深まりが難しいと思われる学び合いの活性化を図る。
- ・学習内容の定着やコミュニケーションのツールとしての ICT の利活用を促進させる。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・毎日の授業の中で「めあて」を板書し、児童にもノートに視写させることで、今日の学習内容に見通しをもたせるようにした。継続していくにつれて、学習の始めでは、問題とめあての把握を行うことが学習習慣として身に付いていった。
- ・ノートに書くことによって、問題とめあてをつかみ、自分の考えをもち、学習を進めていく姿が見られた。また、課題の解決に向けて思考したことをメモしたり、発表をするためにまとめたりするための動機付けとなったように思われる。
- ・めあてをしっかりとめさせることと同じく、学習のまとめや振り返り、それと適用問題まで、1時間の学習の流れをしっかりと児童に振り返らせることで、この時間では、何が分かったのか、何ができるようになったのかが実感できるようになったのではと思われる。同時に、児童が学習のまとめや振り返りを見ることで、その時間の学びの深さなど、児童の様子が把握でき、指導者側の反省材料となることもあり、その後の取組に生かすことができた。

○取組の成果と課題

◇めあての把握から振り返りまでの一連の過程をルーティン化し、学習習慣として児童に定着させることは概ね達成されたと考える。

◆今回は算数科を中心に取り組んできたが、今後は他の教科にも拡大させていき、更なる深化を図っていきたい。

◇自立活動の一環として行ってきた SST(ソーシャルスキルトレーニング)や SGE(構成的グループエンカウンター)においては、児童の考えや思いを周囲が否定をせず、尊重される場を保証し、意図的に設けた。そうすることで、児童は自分の思いや考えを自分の言葉で表現し、他者に伝えようとする場面が以前に比べると出てきたように思われる。

◆1 時間の授業で学んだことを、日常生活の場においての実践する機会や、そのことを児童が自覚できるような手立てを取ることも今後は考えていく必要があると思われる。

◇コミュニケーションのツールとまではいかないが、自分の伝えたいことを表現する上での補完する役割としての利活用が大きかったように思われる。

◆授業の効率化や児童の意欲向上というメリットについて理解はしているが、現在の自分の情報リテラシーがついていけないので、今後は、問題解決や探求のために情報と情報技術を上手に活用するための知識と技能を身に付けたい。

氏名 牟田口 典美

【1回目】

6月 25日(火) 5時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	自立活動		
題材「作って遊ぼう」 (5/7) 本時の目標 ・丁寧に作ろう ・長く回ること、みんなで見つけよう。		・めあてと振り返りは子どもたちの中に定着してきた。 ・両面テープが付きにくいという予想外の状況により、活動時間が短くなってしまった。でも活動には意欲的に取り組むことができた。 ・友達のことを気かけたり友達に声をかけたりする姿が多く見られるようになった。	・振り返りが文章で書けるように、対話をしながら振り返りをする。 ・友達の考えを聞いて、自分なりの言葉で返せるように習慣づける。

【2回目】

10月 16日(火) 5時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元「ひきざん」 (1/10) 小単元「13－9のけいさん」 本時の目標 ・9をどこからひくのかかんがえて、けいさんしよう。		・めあてが書きやすいように、ノートと同じマスに書いて提示している。振り返りは言葉で書くことがまだ難しいので、授業の様子を伝えて、考えさせている。 ・「他のひき方もあるかな？」と問いかけることで2つの考えを見つけることができ、その中から2人とも10からひくという方法を選ぶことができた。 ・友達と考えを比べたり感想を伝え合ったりする活動は、意識して取り入れている。	・振り返りが文章で書けるように、対話をしながら振り返りをする。 ・自分の考えを分かりやすく書いたり、話したりすることができるように支援していく。

【3回目】

12月 10日(火) 4時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元「九九をつくろう」 (13/15) 小単元「もんだい」 本時の目標 ・チョコレートの数をもとめる方法をたくさん見つけよう。		・めあてははっきりしていて、子ども達は集中して課題解決に取り組んでいた。しかし、同じ数のまとまりに意識が向いてしまい、多様な考えにつながらなかった。ヒントを提示しながら、違った考えにたどり着かせることはできたが、簡単なまとめを行い、もう1時間とることにした。	・めあてと見通しのもたせ方を大事にしたい。

【4回目】

2月 3日(月) 3時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元「たしざんとひきざん」 (3/5) 小単元「おいすくない」 本時の目標 ・りんごのあめのかずをもとめるしきをかかんがえよう。		・りんごのあめの数に目を向けられるようにめあてを設定した。具体物を用いて場面を整理した時には12個、りんごのあめの方が多いなど見通しがもてていたが、自力解決の場面では、ひきざんだと思いこみなかなか抜け出せなかった。 ・絵カードを並べて考えたり、友達の考えを聞いたり、教師の問いかけについて話し合ったりしながら、たし算の式になんとかたどりつくことができた。間違えてしまったことで、しっかり考えようとする意識が高まっている。	・めあてと見通しのもたせ方を大事にしたい。 ・振り返りが文章で書けるように、対話をしながら振り返りをする。

校内研究の振り返り

牟田口 典美（みのり4組担任）

今年度の自分自身の課題

- ・ 本時のめあてを示し、振り返りをさせること。
- ・ 子ども達がじっくり活動できる時間をつくること。
- ・ 友達の考えのよいところや自分とは違った考えに目を向けることができるようにする。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・ めあての提示と振り返りについては、自立活動や算数は1時間ごとに、国語は単元ごとに、できるだけ行うようにした。めあては、子ども達が見通しをもち意欲的に取り組めるものになるように心掛けた。まとめは、めあてに対する振り返りと分かったことや感想を書くようにした。文章で書くことが難しい時は、担任と話をしながら授業を振り返って書くようにした。
- ・ 少人数なので、お互いの考えを伝え合い、担任も間に入って話し合いながら学習を進めている。
- ・ 自分の考えを相手にわかるように伝えることや自分たちで課題解決ができるようにすることを心掛けてきた。

○取組の成果と課題

- ◇ 自立活動でおもちゃ作りやゲーム等に取り組んだり、学習が終わった後にゲームやおもちゃで遊んだりすることで、子ども達の関係づくりができ、あたたかな雰囲気の中で安心して考えを交流することができている。お互いの考えを交流しながら学習を進めることで、粘り強く考えようとする姿が見られるようになった。
- ◇ 振り返りを書くことに慣れてきた。◎○△の評価はよく考えずに◎をつけていることが多いが、言葉での振り返りは、その子なりの言葉で書くことができるようになってきていて、どんな思いで取り組んでいるかが見えるようになってきた。言葉での振り返りが難しい子もいるので、個別に話をしながら振り返りをすることを続けていきたい。
- ◇ ビデオをとることで、昨年より多くの先生方に見ていただき、意見をいただくことができた。
- ◆ めあての言葉を自分なりに工夫してきたが授業が思ったように進まないことがあり、めあての持たせ方は、子どもの様子を想像しながらこれからも考えていきたい。
- ◆ ビデオでは分かりづらいところもあるので、できるだけ実際の授業を見れるように手だてを考えていきたい。

金立小学校 令和6年度 My 授業研究の振り返り

氏名 寺澤 千恵

7月 1日(月) 5時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元 100より大きい数を調べよう(10/12) 小単元 数の大小 本時の目標 不等号を使って、数の大小を表せることができる。		・これまでの振り返って、めあての提示○ 振り返り△ ・「分からない」と児童が言えるようになったので、「分かる」と思える授業ができるようになった。 ・姿勢(立位、座位)、場所(机、ホワイトボード)を変えると効果的かも。	

金立小学校 令和6年度 My 授業研究の振り返り

氏名 栗下 翔磨

2月 5日(水) 3時間目		授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等	算数		
単元 長い長さをはかってあらわそう(3/6) 本時の目標 「1mと思うものを見つけて、長さをはかってみよう。」		・長さの測定はペアで行うようにしたことで、児童が協力しながら学習することができた。 ・長さの測定をゲーム形式のようにし、教師も一緒に活動することにより、児童が活発に活動することができた。 ・1mの量感をつかませ方が高さのみだったので、児童が高さにのみ注目していたため、横の長さも体感させる必要があった。	・児童がお互いに自分の考えを伝えながら答えを導き出す活動に取り組みたい。

校内研究の振り返り

栗下 翔磨(みのり5組担任)

今年度の自分自身の課題

- ・授業の中で、説明の時間（教師主導の時間）が長くなってしまうことが自分の課題である。
- ・授業を計画する段階で、説明することをできる限り短く端的に言えるようにまとめておく。
- ・児童の実態に応じた思考する活動やふたりでタイムを積極的に授業に取り入れる。
- ・少人数での授業となるので、教師も一緒になって意見の交流を行い、児童が多く発言できるように手助けする。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・本時の目標（めあて）は、ホワイトボードに板書したり、めあてを書いたワークシートを渡したりして確実に提示するようにした。めあてを提示することにより、児童がその時間でどんなことを学習するか、どんな活動をするかなど、見通しをもって取り組むことができていたように思える。
- ・まとめについては、児童の言葉をつないでまとめるというよりも、教師主導でまとめをすることが多かったように思える。まとめの際に、児童の言葉をうまく引き出せなかったので、それをできるような発問を考えたり、授業の流れをもう一度考え直したりして、次年度は児童の言葉でまとめができるようにしたい。
- ・国語や算数では、ふたりでタイムやみんなでタイムをできるだけ取るようにした。児童の様子としては、自分の考えを相手に伝えることはできるようになってきた。しかし、相手の考えに対して反応をすることに関しては、なかなか難しい部分があったので、相手への反応の例を提示するなどしてよりよい話し合い活動ができるようにしたい。

○取組の成果と課題

- ◇特別支援グループの先生方の授業やビデオ撮影されたものを見ることができた。どのような配慮をしながら授業をされているのか、どのような手順でされているのかなどを実際に見ることができてとても勉強になり、自分のクラスでも取り入れたいと考えた。
- ◇研究授業は1度しかできなかったが、事後研で授業に対する意見や感想をたくさんいただき、自分では気づくことができない視点を持つことができたことがとてもよかった。
- ◆児童が思考する活動で、なかなか考えが思いつかない児童に対する支援がうまくできなかった。支援の仕方次第で、児童がいろいろな考えを出すことができた時もあれば、1つの考えに限定してしまった時もあったので、支援の仕方を授業計画の段階でしっかりと考えて授業に臨むようにしたい。
- ◆少人数ということで、児童が大勢の前で発表する機会をほとんど作ることができなかった。国語や算数の授業で単元によっては交流学級と一緒に活動できる時間もあったと思うので、そのような時間は交流学級の先生と事前に打ち合わせをして、クラスの児童が大勢の前で発表できる環境を作りたい。

金立小学校 令和6年度 My 授業研究の振り返り

氏名 末次 要子

【1回目】

6月7日(金)2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し
教科等 1年 国語		
単元 さとうとしお (4/5) 本時の目標 事柄の順序などを考 えながら、内容の大体 をとらえている。	「問いの文」と「答えの文」の繰り返しの文章構成に音 読を通して気づかせることをねらった。「問いの文」と 「答えの文」をちぐはぐに提示すると間違いには気づく が、理由を話せる児童は限られていた。 「さらさらしたもの」「べたべたしたもの」について多く の児童が発表できた。言葉の理解は深まった。「問いの 文」「答えの文」に分けた音読に集中して取り組めた。	児童どうしの対 話を中心に学習 を展開した後、 新しい見かた、 考え方へ誘う発 問をする。

【2回目】

9月6日(金)5時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し
教科等 5年 算数		
単元 図形の角を調べよう (4/6) 本時の目標 5角形の内角の和を求 める。	既習の4角形の内角の和をもとにして、ほとんどの児童 が5角形の内角の和を求めることができた。単元の始め に、単元の学習の流れを説明していたことで、既習の内 容を使うことが身についてきた。 友達の誤答から、学習を深めることにもつながったのは 良かった。 多角形の角の和から、「三角形の何個分」など図につな がる学習に十分な時間がとれなかった。	誤答や未答など 困ってる児童が いると、児童の 交流も自然にで きた。 意図的な交流の 場を設定した い。

【3回目】

9月11日(水)2時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し
教科等 3年 算数		
単元 余りのあるわり算 (7/8) 本時の目標 題意に応じ た余りの処理ができる。 ・答え+1 ・余りを答えにいれない。	前時に問題を提示して、余りの処理について、答えに1 を加える場合について、児童の説明をもとに学習を進め た。説明の仕方に条件を与えるなどして、説明する児 童、聞く児童にポイントを与えておくべきだった。児童 の説明から学習を深めることができなかった。 児童の発表をもとに学習を進めることで、発表する意欲 を高めている児童の姿は見られた。	児童の発表か ら、答えは本当 にそれでいいの か。「ゆさぶ る」機会を逃し たのが残念だっ た。

【4回目】

10月15日(月)1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し
教科等 6年 算数		
単元 円の面積(5/6) 本時の目標 円の面積の求め方 を使って複合図形の面 積を求める。	自分の考えがもてずに学習が滞っている児童が数名見 られた。個別の指導に努めたが、前学年までの理解も不 十分なため、児童の話し合いにも参加できずにいた。個人 差が大きい集団の話し合い活動を成立させるには、レ イネス調整を十分にしておく必要があった。 小集団での話し合い活動では、問題解決に向けて自然な 交流ができていた。	問題解決してい く過程を愉しめ る展開(発 問)。 児童の実態に応 じた学習形態。

校内研究の振り返り

末次要子（算数 TT）

今年度の自分自身の課題

- ・ めあてとまとめの整合性。
- ・ 深く考えさせたり、考えを広げたりする時間の確保のために、中心になる発問をしぼる。
- ・ 授業のできるだけ多くの時間を児童にゆだねる。

・ めあてとまとめの整合性

算数では、本時の問題を解決するために必要な力は何なのか考え、それがめあてになるようにしている。問題によっては、問題そのものがめあてに重なる場合があったり、児童に理解しやすい言葉にしにくいこともあったりする。めあてを提示する時には単元の中の本時の位置づけや、これまでの学習との関連など考えて提示するようにしている。

めあてと問題解決が合致している場合は、めあての文と黒板の言葉をつかってまとめを書くことができる。それがうまくいくかいかないかで、自分の授業を評価できる。問題を提示した後に、「今日のめあては何だろう」と児童に問いかけることもありかもしれない。何ができれば、この問題が解けるのか、同じような学習を繰り返す時には、可能ではないか。

・ 中心発問について（児童に深く考えさせる場面）

解決法が3つ以上あるときは、分類して違いに気づかせる。共通点を見つけて一般化につなげることなど意識している。（解決法に名前をつけることも、一般化に近づく）教師が間違えて見せることも、児童が考える場面になると思う。教材研究を深めることと、経験を重ねることが必要でなかなかうまくできなかった。

・ 児童にゆだねる。（児童に気づかせ、考えさせる）

できるだけ多くの児童を授業の舞台にのせる。（授業参観させない）ことを意識はしている。わからなくて挙手できない児童が多い時は、起立させて、ヒントを言える児童に言わせる。ヒントで分かったら着席させる。説明は複数の児童に言わせる等。まだまだ教師主導で児童にゆだねていない。児童の力を信じてゆだねて良い場面をふやしていきたい。

・ その他 ノート指導について

未完成であっても、自分の考えを記録として残したノートにしたいと考え、自分の考えを色違いの紙に書かせようとしたが、続かず、板書したことをそのまま写すノートになってしまった。大きな反省点である。来年度重点的に取り組みたい。

【1回目】

7月 5日(金) 1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 理科		
単元 音のふしぎ (2/6) 小単元 音の出方 本時の目標:音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解する。	場の工夫については、実験道具を二人に一つ分用意し、時間を区切ってすべての器具に触れるようにした。適切にできた。実験の結果予想に理由を加えた。このことで実生活や実体験を導きながら実験に臨ませることができた。	今回は、体育科の授業を計画している。そこで、授業を見通し、課題とする場の工夫について検討して臨みたい。

【2回目】

10月 22日(火) 1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 体育		
単元 マット運動 (6/9) 小単元 新しい技に取り組もう 本時の目標:安全に気をつけて、進んで側転に取り組むことができる。	場の工夫については、体育館の半分ぐらいの広さで活動させることも目が届きやすくなる。また、マットをつなげると、連続でできる児童などにはより活動しやすくなる。学習活動の適切さについては、グループで取り組ませ、ビデオを撮り入れて活動することはできたが、同じレベルのグループを作らせて取り組ませる工夫を取り入れると、さらに活動が活発にできると思われる。	準備や説明などがあるべく端的に行い、活動量を増やしたい。 取り組む技の視点について意識させ、話合いのポイントにしたい。

【3回目】

11月 21日(木) 1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 体育		
単元 跳び箱 (5/7) 小単元 新しい技に取り組もう 本時の目標 開脚跳びをより美しく跳ぼう	・意識した点は、活動量と技のポイントを伝え合うことであった。活動量については、意識したこと、説明を短くしたことで増やすことができた。しかし、伝え合う活動については、時間を設けないとできない部分もあったので、その時間を確保する必要があった。 ・場の工夫については、体育館の半分ほどで活動したので、目が届きやすかった。技を一つに絞ったことで苦手な児童に集中して指導することもできた。	・伝え合う活動を意識的に設定し、取り組ませたい。そのための話し合う必然性にも意識して課題を設定したい。

【4回目】

2月 14日(金) 1時間目	授業後の振り返り (課題解決の取組についての自己評価など)	次回への見通し (次回、取り組みたいこと)
教科等 理科		
単元 ものの重さ (4/6) 小単元 ものの形と重さ 本時の目標:物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。	場の工夫については、グループに一つずつ用意をし、実験内容も二つあったため、適切であった。 授業の流れについては、粘土を使用したため、手洗いが必要になり、時配が思うように進まなかった点が反省として挙げられる。	実践をしていて準備不足の点があった。今後も計画段階で準備に必要なことをさらに深く考えていきたい。

今年度の自分自身の課題

- ・児童が主体的に活動できるよう、場の工夫を検討して授業に臨む。
- ・児童の活動を十分に保証できるよう一単位時間の授業プランをしっかりと見通す。

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・めあてについては、毎時間意識して、板書し提示した。適切であるかについては、事前に吟味し、必要な場合やそのときの状況で若干文言を換えることもあった。
- ・学習展開については、ある程度適切であったと思うが、話し合う活動の時間をもっと多く設定したいと思うこともあったので学習展開の工夫がもう少し必要だと思った。
- ・振り返りについては、グループ研などでは意識して取り組めたが、普段の授業ではできていないと思うこともあり、自分自身が定着できていないと思った。

○取組の成果と課題

- ◇場の工夫については、実態に応じて環境を整えることができた。実態や環境に応じた場を設定することは、児童の活動に必要であり、今年度は適切にできたと思う。
- ◇児童に十分な活動をさせるために、場の工夫を主に意識したが、時間配分も意識して取り組むことも必要であり、活動をしっかりとらせることはできた。しかし、チェックシートの活用にも書いたように、もっと話し合う活動を充実させたいと思う。
- ◆夏期休業中に ICT 研修を行い、もっと ICT を活用したいという思いをもった。体育科の授業でタブレットを取り入れた活動を行った。年度当初は、計画に入れていなかったことも反省であるが、使ってみて、さらに児童にとって効果的に活用したいと思った。もう少し、使い方に教師自身が慣れる必要があると考える。
- ◆今年度は、理科、体育科の授業実践を行った。話し合う活動よりも実験や実技など、実際に活動することが中心となるため、話し合う時間が短く、教師と児童とのやりとりのみで進めている部分が多かったように感じる。もっと児童自らの力で進めたり問題を解決させたりすることができるようになりたいと考える。
- ◆振り返りについては、グループ研では、意識できたが、普段の授業時間にうまく組み入れることができていないことが課題だと感じた。振り返りによってめあてが達成できたかを確認することで、自己肯定感や主体性などにもよい影響がでるのではないかと考えると、もう少しそのための時間をとって取り組ませる必要があったと考える。
- ◆今年度は、場の工夫を中心に取り組んだが、時間を意識し、一つ一つの活動のつながりを意識してどの場面でも充実できるように工夫や設定をしていきたいと考える。

令和6年度 校内研究 アンケート

1 今年度校内研究で取り組んだ取り組みについて

(1) 年間4回の授業研は、どうでしたか。

- ア よかった5 イ どちらかといえばよかった3
ウ どちらかといえばよくなかった2 エ よくなかった0

- 定期的に見直すことができた。いろいろな先生のアイディアをきくことができた。
- 4回行うことで、それぞれの先生方の普段の授業を見ることができた。普段とられている手だてなどがよく見れた。
- 計画的に取り組むことで、よりよい授業にしようとする意識がもてた。
- いろいろな先生方の様々な教科の授業を見ることができた。
- 自分の授業を客観的に見れる機会がつくれてよかった。自分で振り返ったり、たくさんの先生方に教えていただき勉強になった。
- △回数が多く教室を空けることになるのが気がかり、本時だけでなく事前から関わりたかった
- △年間4回は負担が大きかった。子どもの自習が増えるのは心配。(補充に入れない)

(2) 授業研後の先生同士での振り返りの時間はどうでしたか。

- 思ったことを話し合う時間は大変貴重だった。
- 他のクラスの児童理解につながってよかった。
- どういう思いで授業をされているのかがわかってよかった。
- いろいろな先生、教科の話が聞けるので充実していた。
- たくさん意見を話し合い、考えがより深まった。
- △振り返りの時間を確保するのが難しかった。

(3) 授業研後、授業や指導についての意識の変化や実際の指導等は変わりましたか。

- 事後研でのアドバイスや意見を意識して実践できた。
- キーワードの提示・めあてのめたせ方・子どもへの働きかけなど変わってきた。
- 「問い」を意識して授業ができるようになった。
- 変えようと意識し、できることから少しずつ取り組んでいった。
- 自分の課題と強みがより明確になり、日々の授業にも意識して取り組むことができた。
- △はっきり言って、わからない。

(4) 普段の授業について「授業づくりチェックシート」をふまえた普段の授業の見直しはどうでしたか。

- ・意識して行うことができた(8名)との回答が多かった。
- 充分にはないにしても、意識づけはできてきていると考える。
- チェックシートの「適切である」との文言があいまいな部分がある。チェックシート自体を見直しをはかる必要がある。

*十分ではないにしても、意識づけはできてきている、と考える。

(5) 授業づくりチェックシートを意識して授業改善はできましたか。

ア できた 4 イ どちらかといえばできた 4
ウ どちらかといえばできなかった 1 エ できなかった 0

- 意識づけはできたが、内容は不十分なところがある。
 - 自分の指導を再確認し、基本に立ち返ることができた。
 - めあて・ふりかえり・話し合い・など各自が意識して授業に取り組んでいる。
 - 学習過程のルーティーン化を図りたいので活用している
 - 子どもたちが考えを交流すること、じっくりと課題解決に取り組む時間を大事にしてきた。
- *手元に置くことで意識は高まってきていると考えられる。

(6) 来年度の校内研究はどのような形で進めたいですか。(具体的をお願いします。)

ア 今年度のように個人の課題を設定して行っていく 8
イ 年に1回程度、指導案を書いたうえでの全体研やグループ研を行う。 2
ウ その他

- ア・回数を減らして、じっくり参観できるようにしたい
 - ・前・後期 各1回(学校訪問があるので、指導案を書く機会はある)
 - ・自分の強みと課題を設定することで、自分のよさを伸ばせたので続けていきたい。
 - ・他のグループも積極的に参観したい。
- イ・指導案作りから他の先生の目が入ることで、より良い組み立てや効果的な指導を見つけることができるのではないか
 - ・1つの指導案に時間をかける、個人の課題を意識するのは大切だと思うが、個人任せになり個人差が出てくる・・・のでは？
- ウ・来年度は音楽の全国大会の授業校となるので、全職員が音楽科の学びを進める研究にするのはどうか？

(7) 校内研究をより良いものにしていくためのアイデアがあれば教えてください。

- ・音楽の授業をもっとじっくり見たかった。
- ・めざすもの・高める力が明確になってくる授業研ができるといい。
- ・G研後の協議はとてもよいと思うので、時間を確保してしっかりできるといい。
- ・道徳STに授業をしてもらったのが、とてもいい勉強になった。他教科でも授業をしていただけだと、発問やゆさぶり、板書など勉強になると思います。

令和6年度 研究同人

校 長	副島 和久		
教 頭	今泉 博枝		
指 導 教 諭	横尾 英樹		
研 究 主 任	藤松 千晃		
1 年 1 組	岡 真由美	1 年 2 組	内野 滉太
2 年 1 組	杠 彩生		
3 年 1 組	藤松 千晃	3 年 2 組	佐々木 巧
4 年 1 組	牛島 風香		
5 年 1 組	脇部 拓也		
6 年 1 組	三好 孝晴		
みのり1組	伊藤 陽子		
みのり2組	佐々木 輔		
みのり3組	村山 康三郎		
みのり4組	牟田口 典美		
みのり5組	寺澤 千恵・栗下 翔磨		
少人数TT	末次 要子		
	笹原 愛子	江口 歩	
理科専科	浅井 慎司		
外国語専科	セイガー恵美		
教育的配慮加配	古賀 恵利子		
養 護 教 諭	野田 華世		
初任者指導	平田 繁正		
生活指導員	園田 由美子		
特別支援学級支援員	松本 剛一		
A L T	アザム ムハマド ズィーシャン		
学校事務	大家 真弓, 松尾 智子		
学校事務員	深川 啓二		
学 校 図 書	鶴丸 亜里奈, 出野 めぐみ		
栄養職員	松永 沙知		
給食技術員	石橋 佐智子, 末次 眞子, 鳥越 理恵		
ICT 支援員	大坪 義彦		